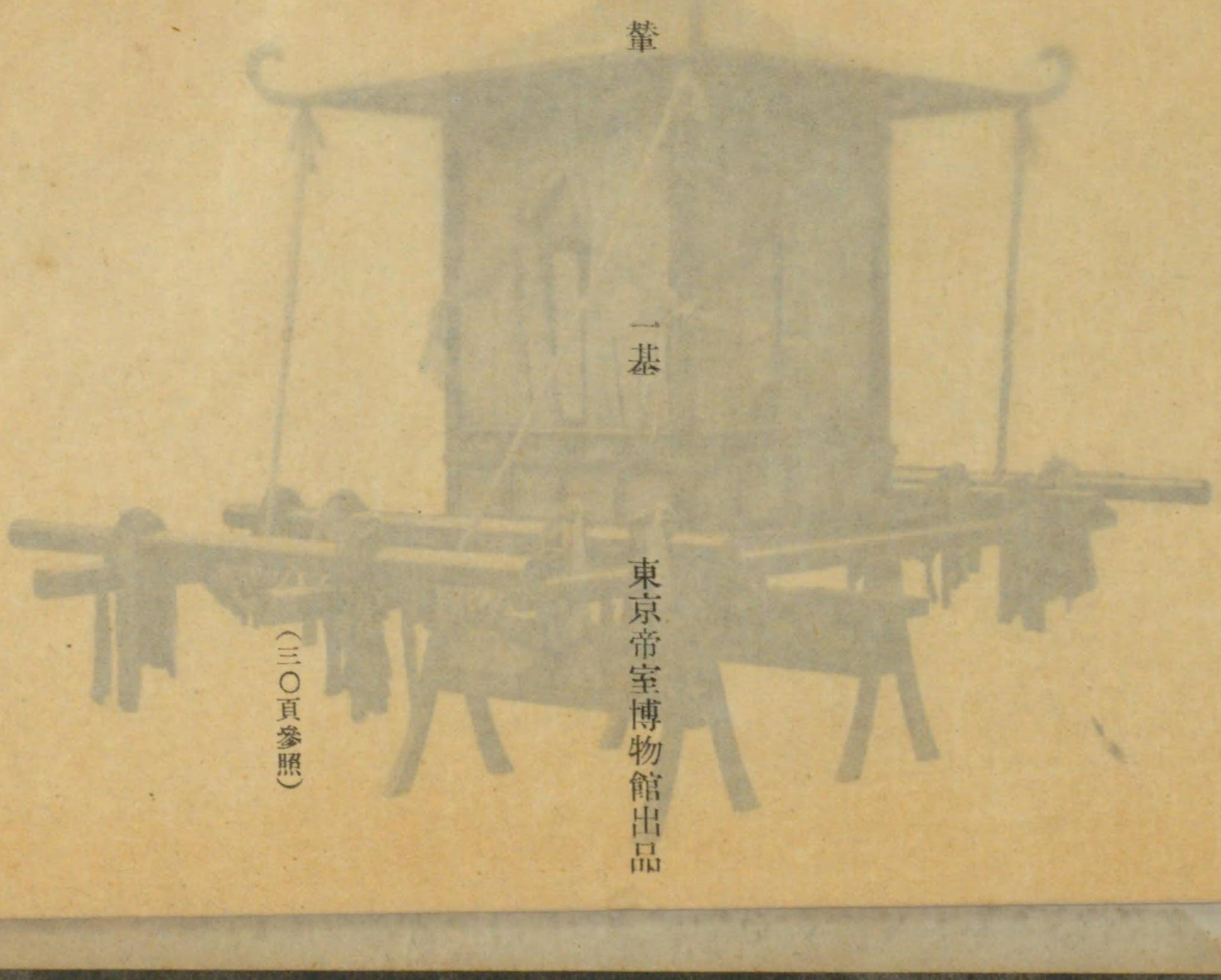
恩賜京都博物館
歴史品目録
礼式風俗之部

549
41

549-41
1200501506918

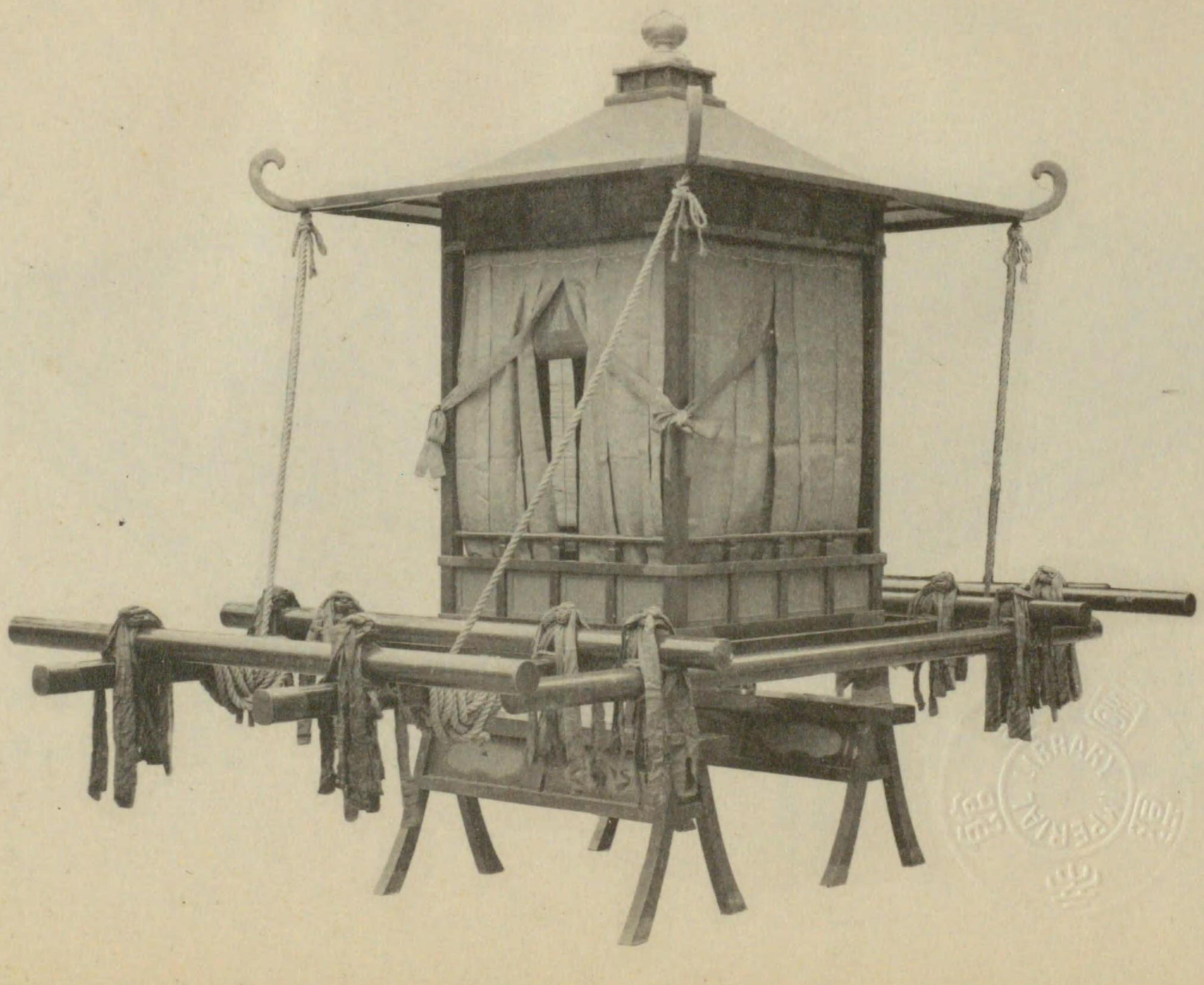
恩賜京都博物館歷史品目錄

禮式風俗之部

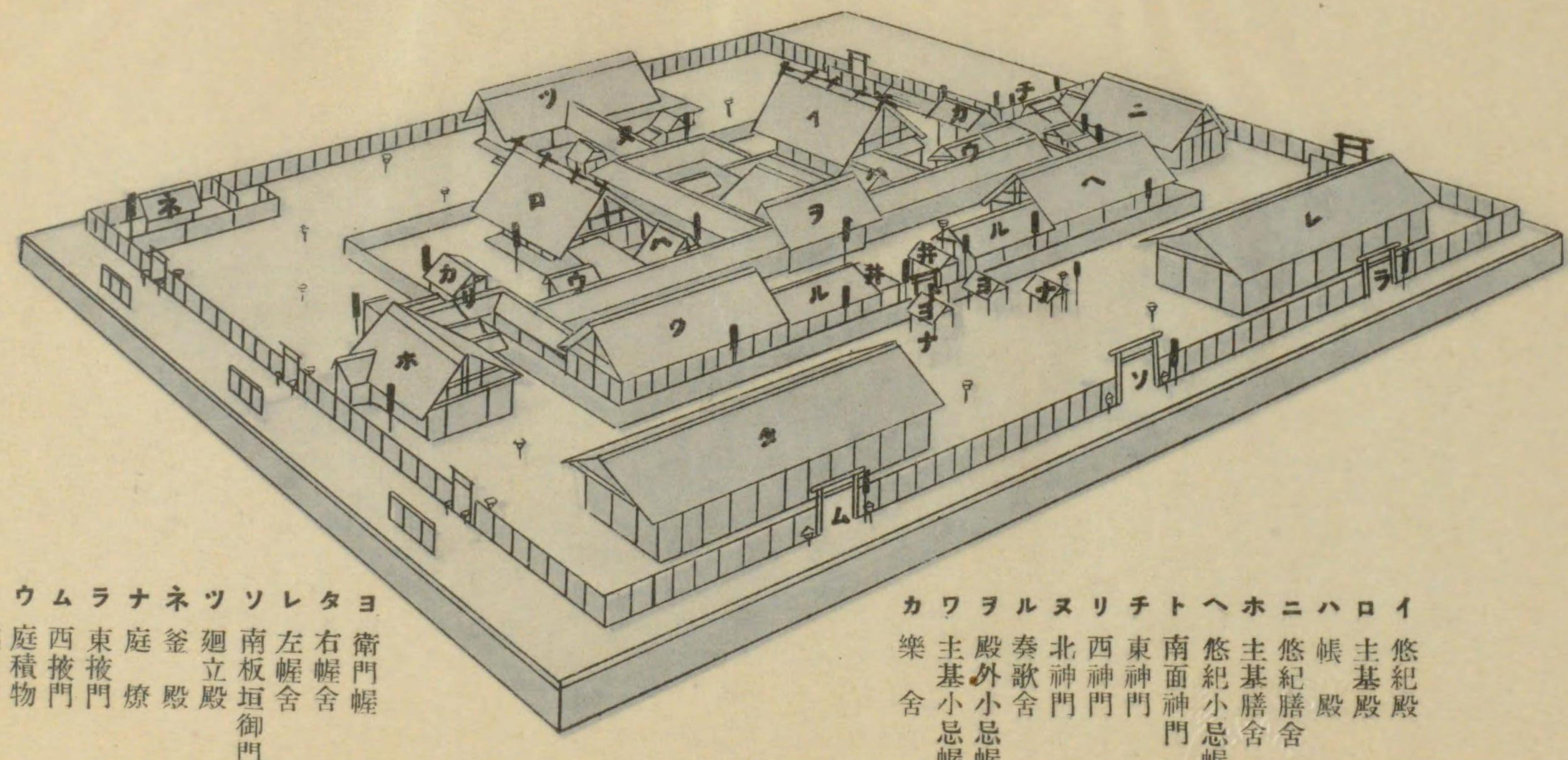


三五　葱華輦　一基　東京帝室博物館出品

（三〇頁參照）

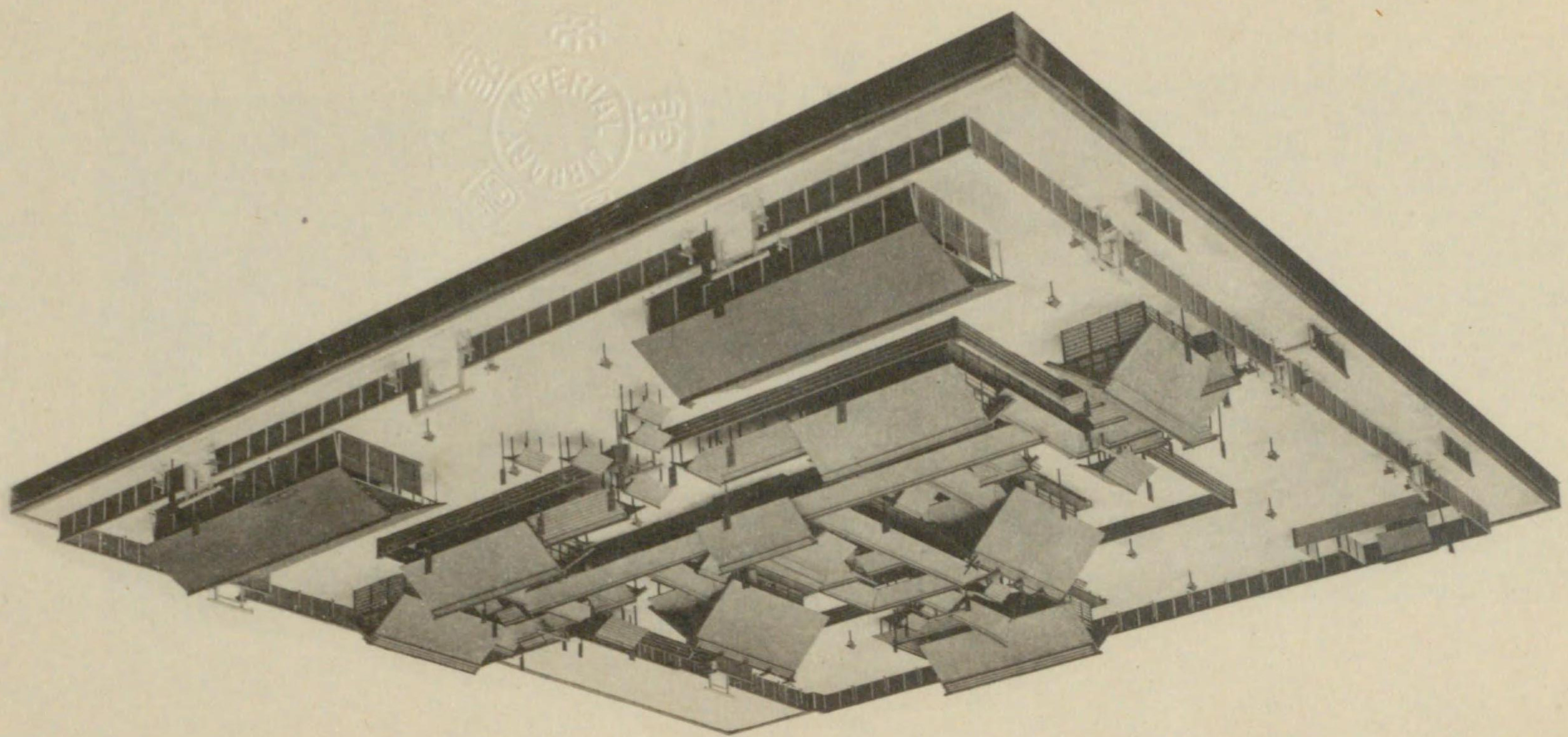


一九八 大嘗宮模型（五十分の一）一組 宮内省下賜 本館藏

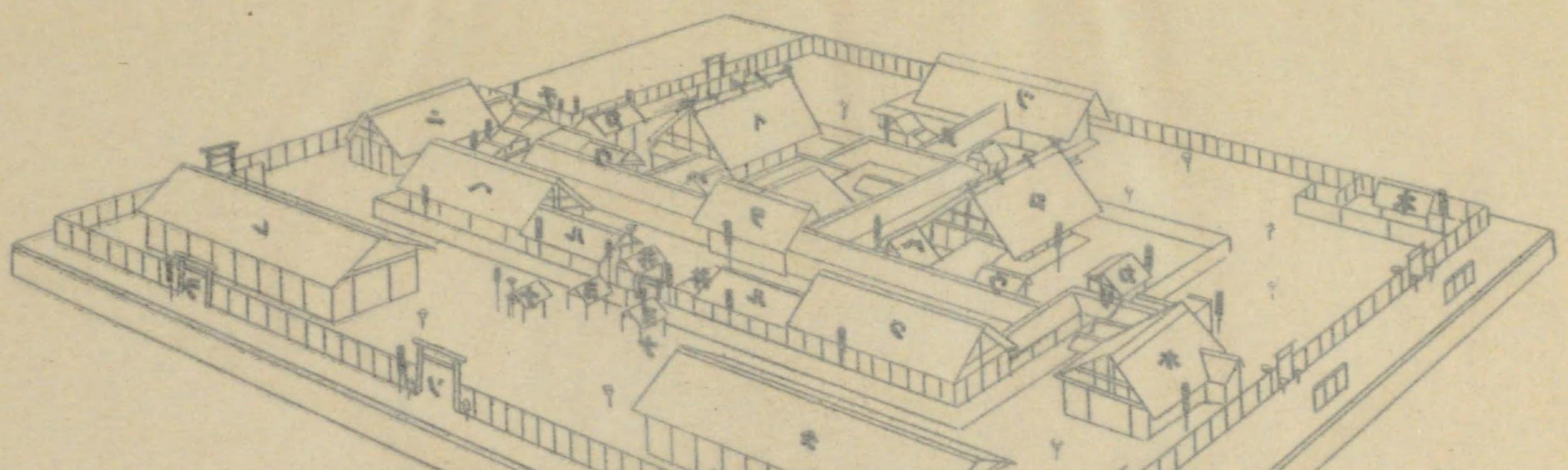


イ 悠紀殿
ロ 主基殿
ハ 帳殿
ニ 悠紀膳舎
ホ 主基膳舎
ヘ 悠紀小忌幄舎
ト 南面神門
チ 東神門
リ 西神門
ヌ 北神門
ル 奏歌舎
ヲ 殿外小忌幄舎
ワ 主基小忌幄舎
カ 樂舎
ヨ 衛門幄
タ 右幄舎
レ 左幄舎
ソ 南板垣御門
ツ 廻立殿
ネ 釜殿
ナ 庭燎
ラ 東掖門
ム 西掖門
ウ 庭積物
井 威儀幄

（四頁參照）

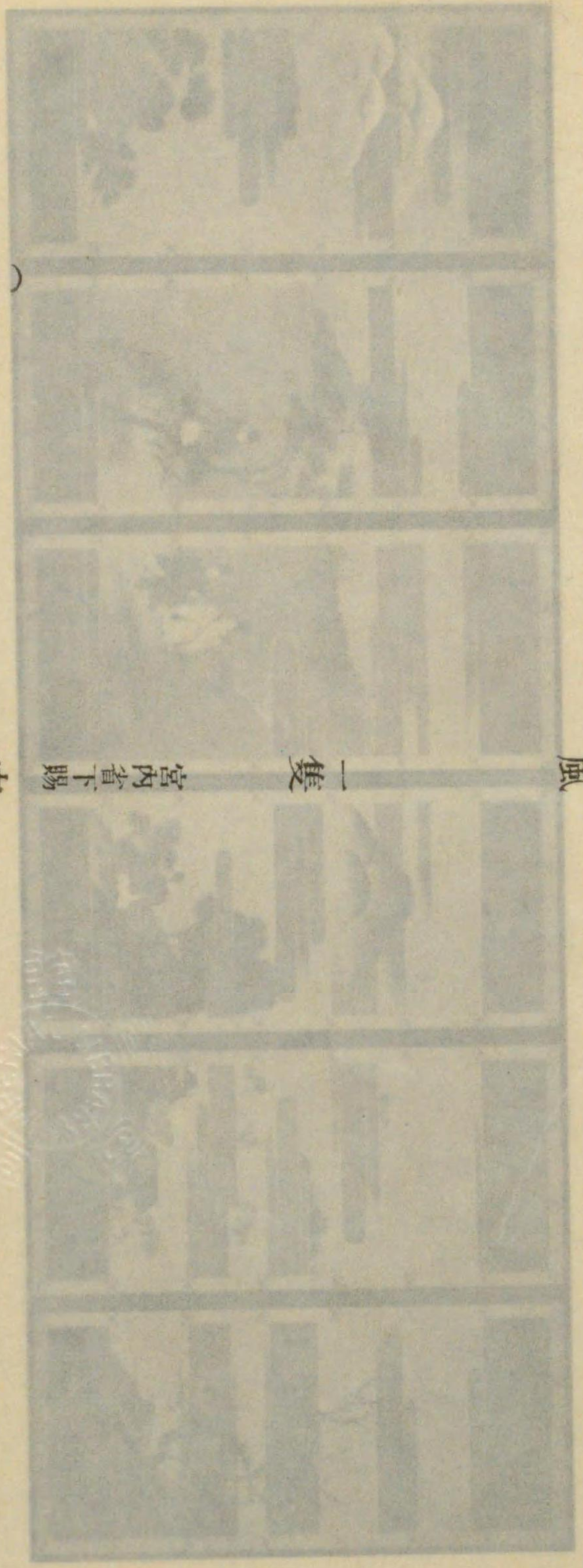


一九八　大嘗宮模型（五十分の一）　一組　宮内省下賜　本館藏



イ　悠紀殿
ロ　主基殿
ハ　帳殿
ニ　悠紀膳舎
ホ　主基膳舎
ヘ　悠紀小忌幄舎
ト　南面神門
チ　東神門
リ　西神門
ヌ　北神門
ル　奏饌幄舎
ヲ　殿外小忌幄舎
ワ　主基小忌幄舎
カ　楽舎
ヨ　衛門幄
タ　右幄舎
レ　左幄舎
ソ　南板垣御門
ツ　廻立殿
ネ　釜殿
ナ　庭燎
ラ　東掖門
ム　西掖門
ウ　庭積物
井　威儀幄

（四頁參照）

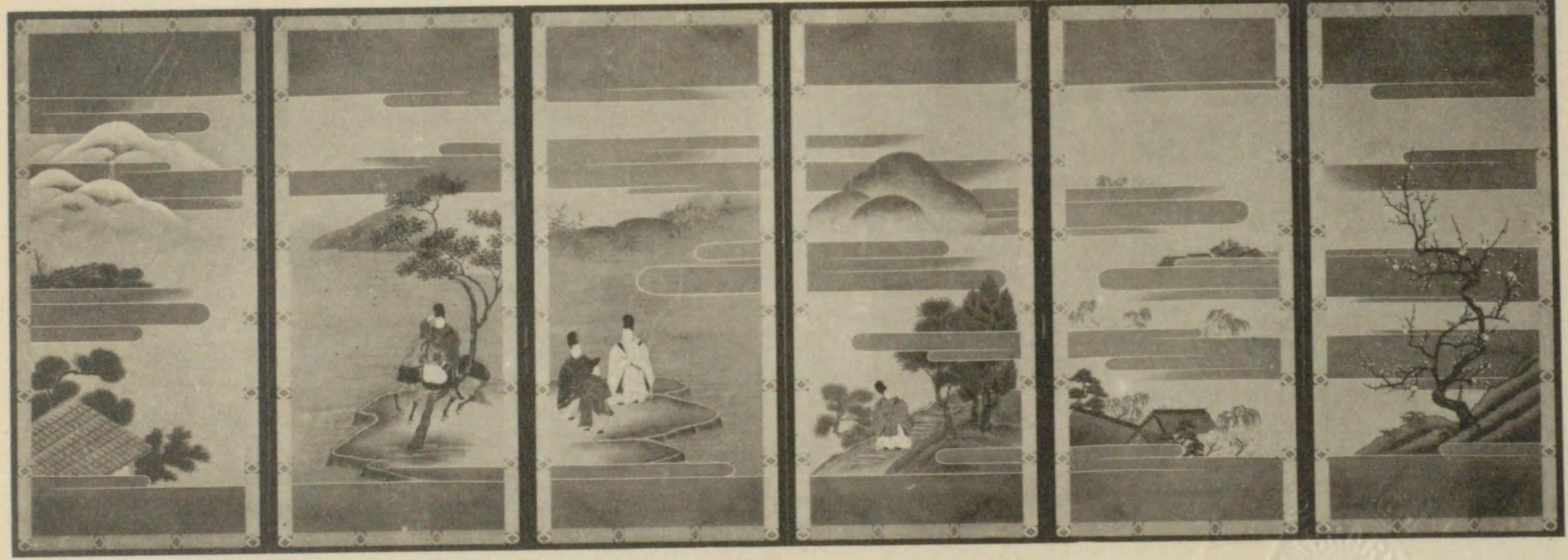


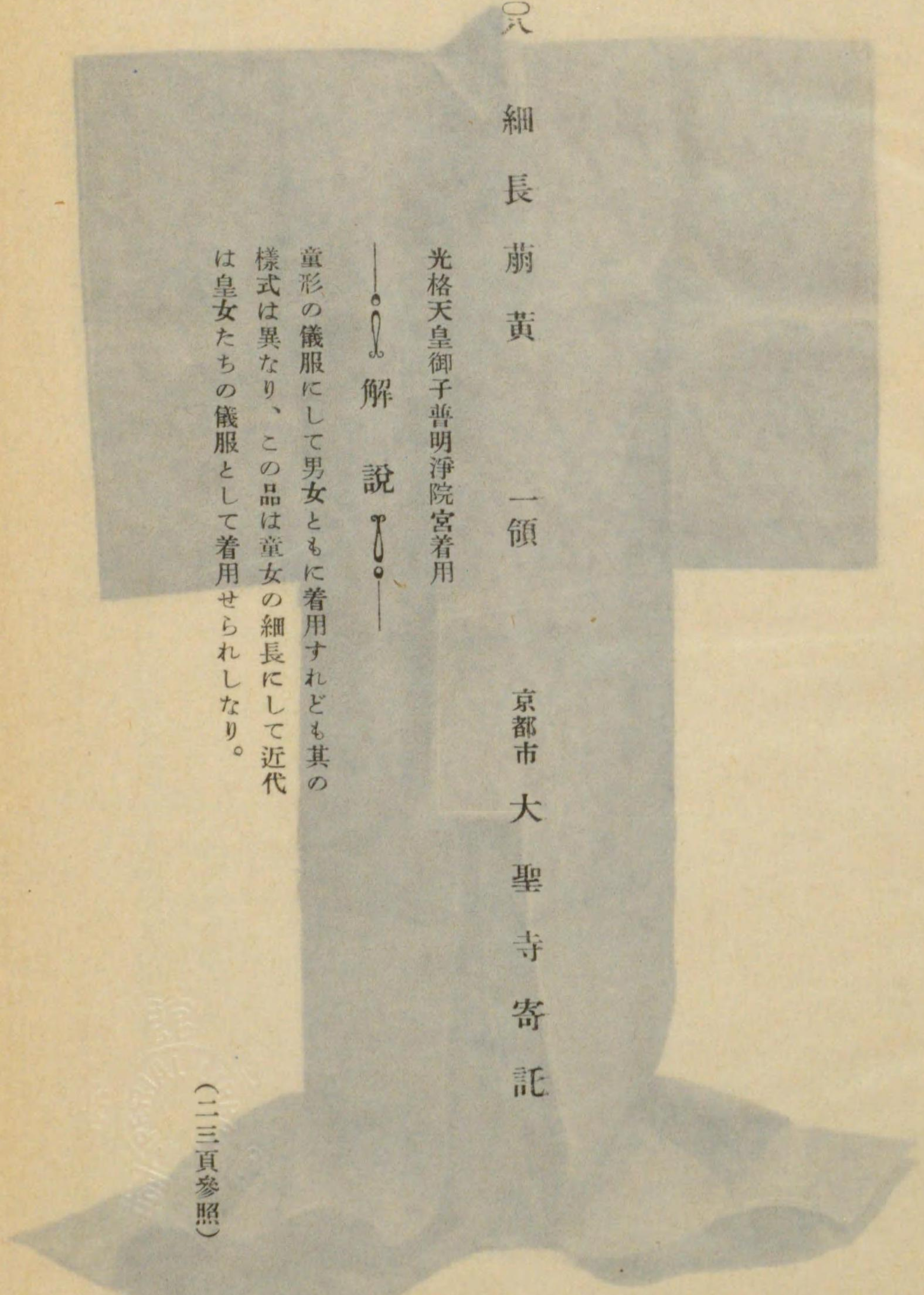
四五　錢形御屏風

一隻　宮內省下賜

本館藏

（一五頁參照）





二〇八

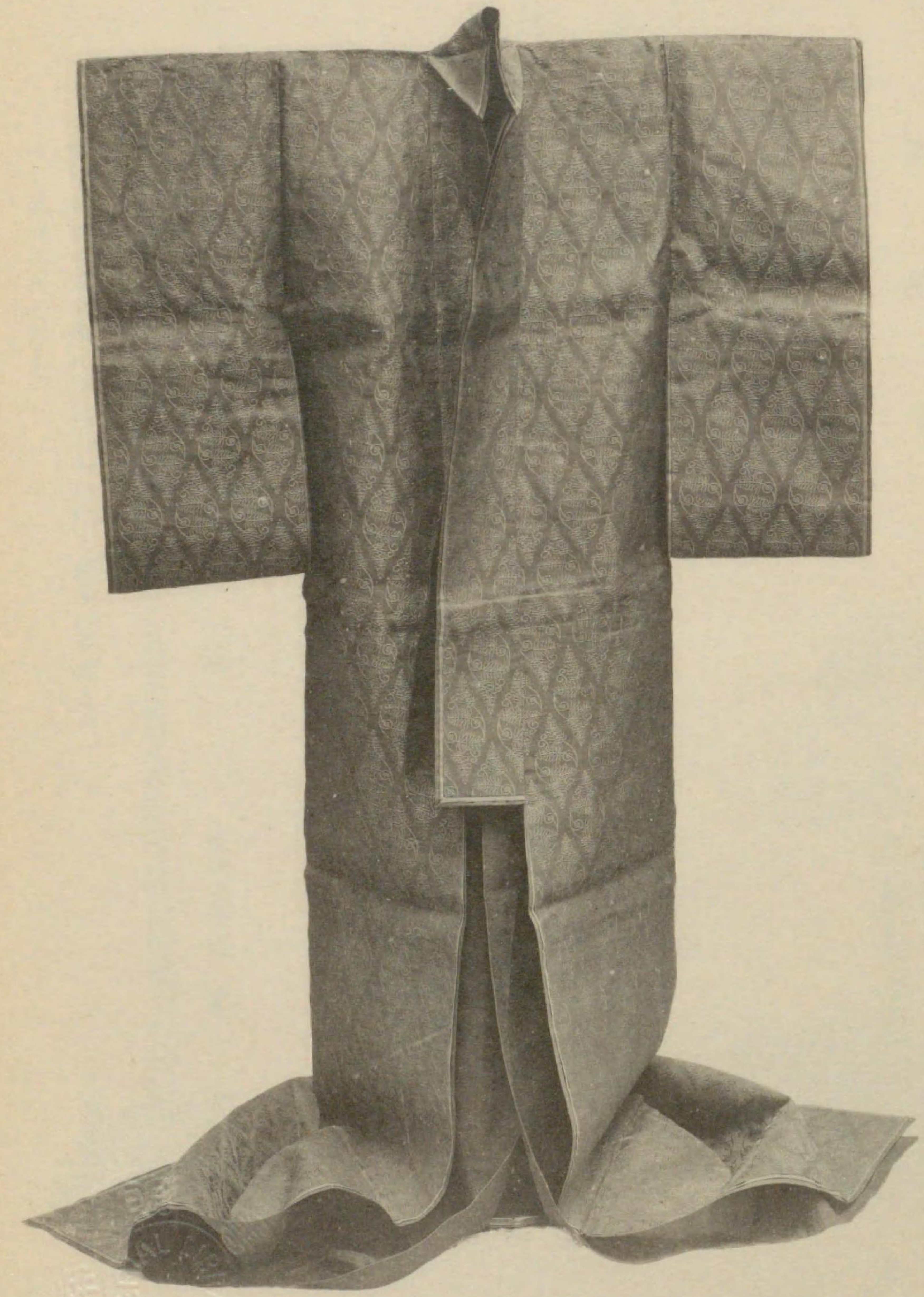
細長萠黄　一領　京都市大聖寺寄託

光格天皇御子普明淨院宮着用

解説

童形の儀服にして男女ともに着用すれども其の様式は異なり、この品は童女の細長にして近代は皇女たちの儀服として着用せられしなり。

（二三頁參照）



三八　細長萌黄　一領　京都市大聖寺寄託

光格天皇御子普明浄院宮着用

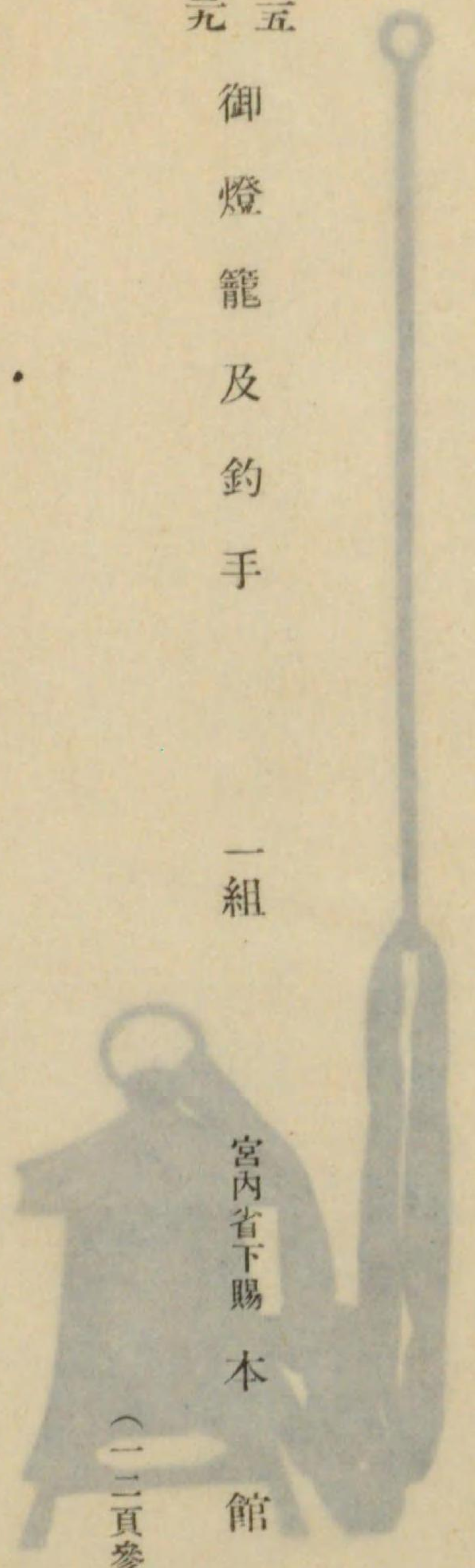
解説

童形の儀服にして男女ともに着用すれども其の様式は異なり、この品は童女の細長にして近代は皇女たちの儀服として着用せられしなり。

（二三頁参照）

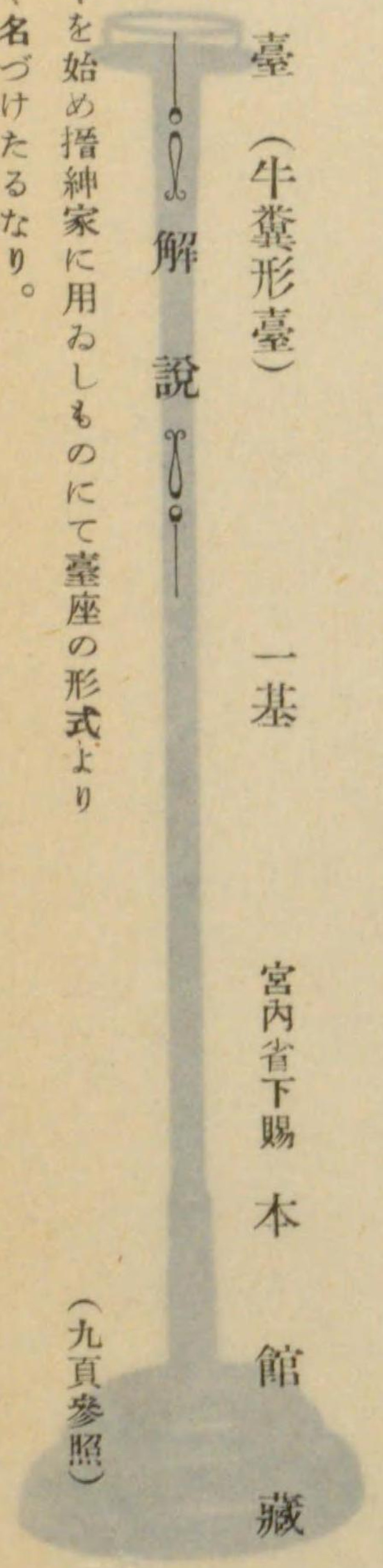
三二　鼠燈檠　一基　京都府寄附　本館藏

（三四頁參照）



四二五
四二九　御燈籠及釣手　一組　宮内省下賜　本館藏

（一二頁參照）

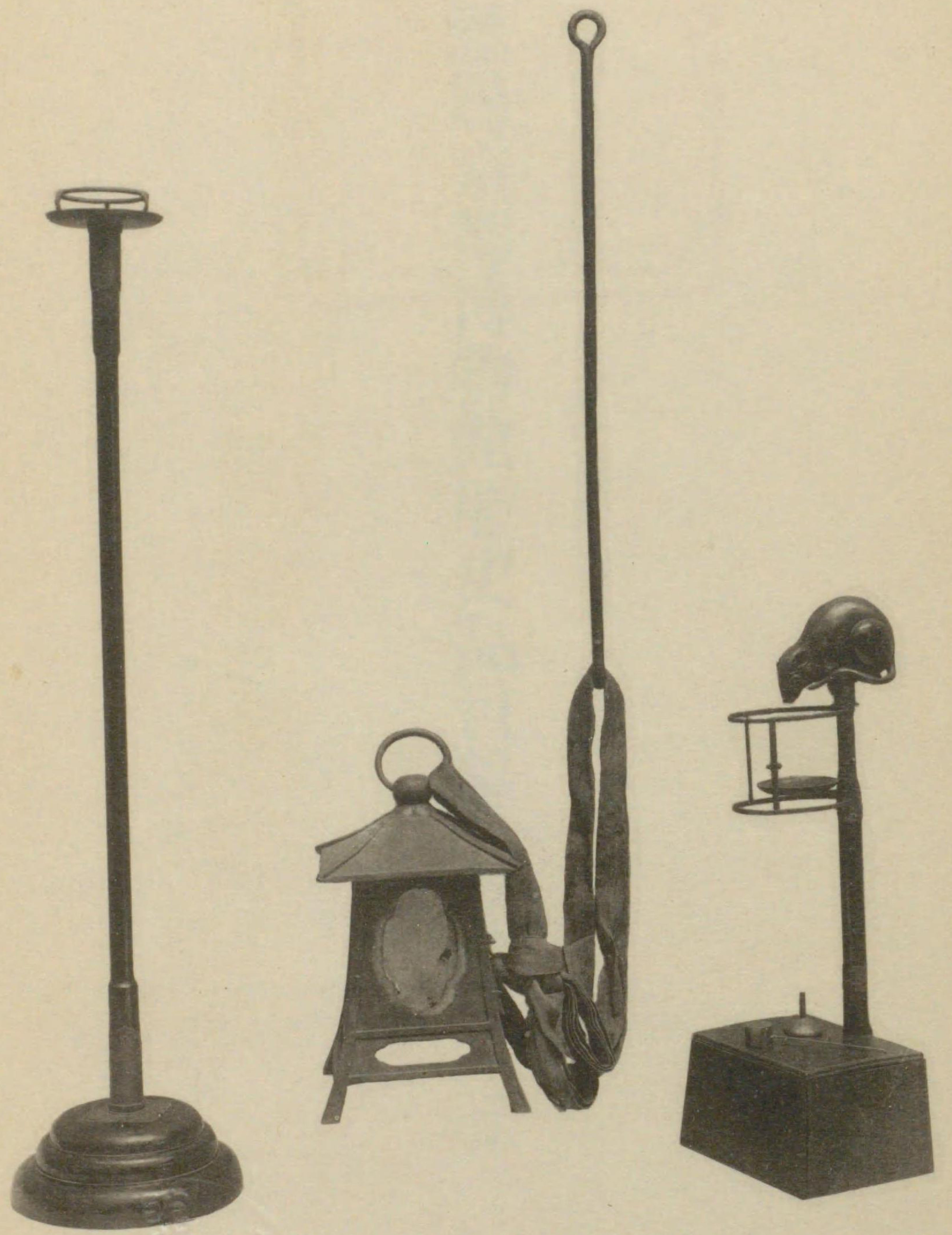


四〇八　御燈臺（牛囊形臺）　一基　宮内省下賜　本館藏

（九頁參照）

解說

禁中を始め搢紳家に用ゐしものにて臺座の形式よりかく名づけたるなり。



三二　屏燈臺　一基　京都府寄附　本館藏

（三四頁參照）

四〇九
四一〇　御燈籠及釣手　一組　宮内省下賜　本館藏

（一二頁參照）

四〇八　御燈臺（牛舌形臺）　一基　宮内省下賜　本館藏

解說

禁中を始め攝關家に用ゐしものにて臺座の形式よりかく名づけたるなり。

（九頁參照）

恩賜京都博物館歷史品目錄

禮式風俗之部

昭和五.九.三〇 内交 帝圖

凡例

一歴史品ヲ分チテ圖書、古代遺品、祭祀宗教、武器、禮式風俗及ビ貨幣度量衡信印ノ六部門トス本目錄ハ禮式風俗ノ部ニ屬スル物品ヲ掲載スルモノナリ

一禮式風俗ノ部ヲ分チテ儀式用品及服飾、家什及雜具、樂器、遊戲具、文房具トス

一品目ニ冠スル番號ハ現品ニ附セル題箋ノ番號ナリ。便宜ノ爲メニ附シタルモノニシテ順序ハ不同ナリ

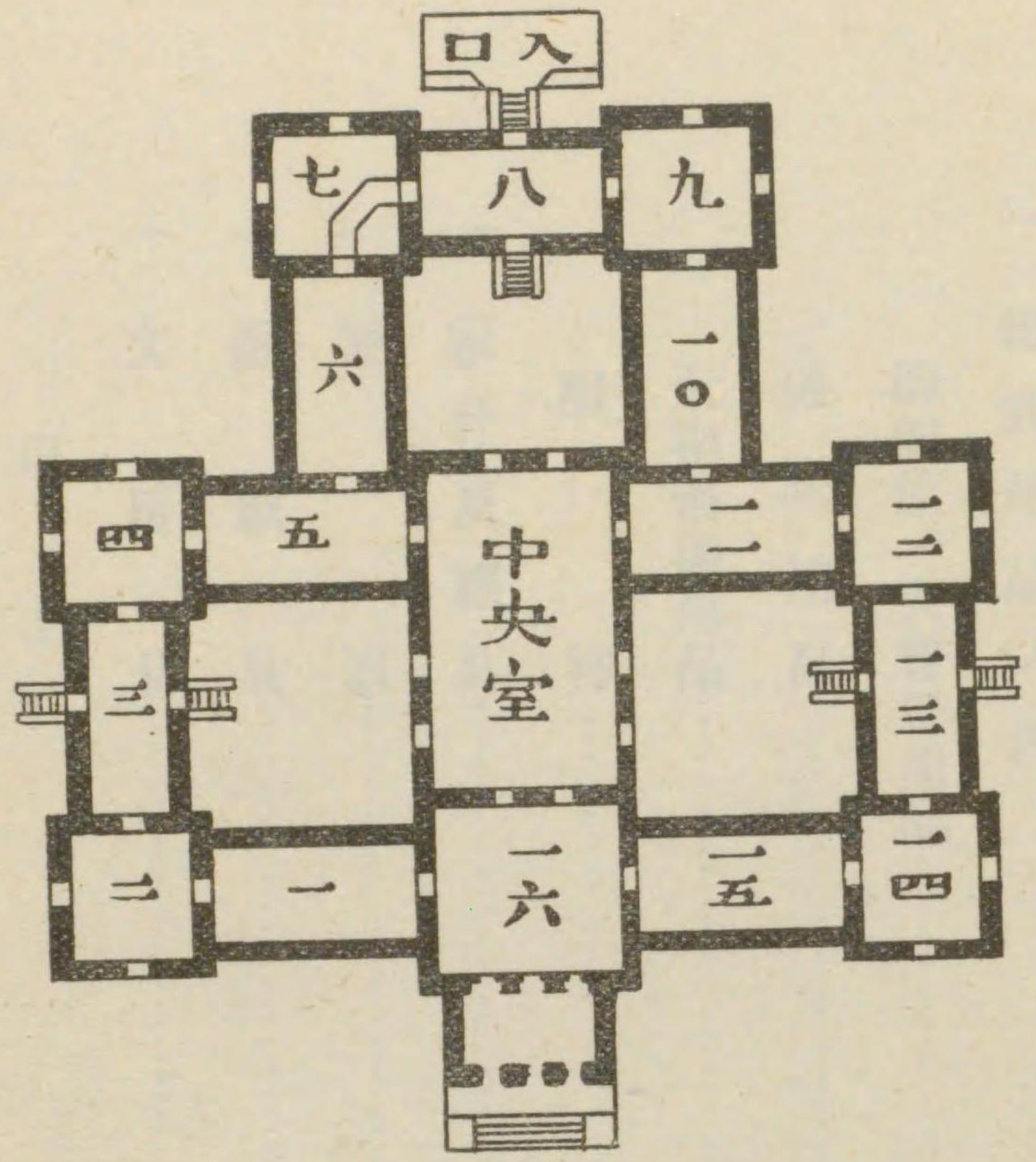
一目錄中ニ寄託トアルハ社寺ノ出願ニヨリ受託セルモノ、出品トアルハ官廳又ハ個人ヨリ出品セルモノヲ云フ

一本目錄ハ昭和五年三月末現在ヲ以テス

以上

昭和五年三月

恩賜京都博物館陳列品配列表



第一室	美術部	彫刻物
第二室	美術工藝部	金屬、織繡品等
第三室	同	窯製品
第四室	同	抹漆品
第五室	歷史部	禮式、風俗、祭祀、宗教具等
第六室	同	古代遺品、發掘品、貨幣、度量衡等
第七室	特別觀覽室	通路ニハ美術部洋畫、銅版畫、粉本類ヲ陳列ス
第八室	歷史部	武器類
第九室	同	古文書、圖書、典籍、金石文等
第十室	美術部	書蹟
第十一室	同	繪畫
第十二室	同	同
第十三室	同	同
第十四室	同	同
第十五室	同	同
第十六室	同	彫刻物
中央室	特別展觀又ハ講演會ノ會場ニ充ツル爲メ本室ニハ陳列品ヲ置カズ	

○入口ニ觀覽券發賣所、携帶品、下足預所アリ

5-49-41

目次

一 儀式用品ノ内

御卽位、大嘗祭用品……一頁

儀式用品……八頁

大喪儀御用品……一九頁

服飾……二三頁

一 家什及雜具……三一頁

一 樂器……三五頁

一 遊戯具……四〇頁

一 文房具……四七頁

以上

恩賜京都博物館歴史部目錄　禮式風俗ニ關スル之部

一、儀式用品之內（卽位式、大嘗祭用品）部

三六一　玉　冠　二頭　宮内省下賜　本館藏

三六二　玉　冠　二頭　本館藏
卽位式に五位以上の臣下の禮服着用の時の冠なり

同上

三六四　古玉冠　二頭　本館藏
近代のものとは様式異なれり

二三　玉　冠　正三位の料　一頭　京都府寄附　本館藏

七　三山冠　筥及臺添ふ　一頭　京都府寄附　本館藏
卽位式に六位以下の臣下の禮服着用の時の冠なり

一一一　武禮冠　一頭　京都市伯爵勸修寺經雄氏出品

武官の禮冠にして卽位式に近衞大將等の着用せしものなり

三五九　挂　甲　一領　宮内省下賜　本館藏

肩當、攝腰

近代は卽位式の時にのみ近衞次將が闕腋袍の上に着用せしものなり

三八九　舄　一足　同　本館藏

卽位式の時に臣下の禮服を着用せし時に穿きしものなり

二七八　鷹形幡　一流　京都市　長谷川清兵衛氏出品

卽位式の時に紫宸殿の南庭に樹てたる幡なり

二九三　神御沓　大嘗宮御用　一雙　京都府南大路謙一氏寄附　本館藏

四二　小忌衣　赤紐付　一領　京都市子爵豐岡圭資氏出品

大嘗祭新嘗祭に典侍掌侍の着用せしものなり

一二　小忌衣赤紐　一條　東京市伯爵柳原義光氏出品

大嘗會新嘗會に着用する小忌衣の肩に附けて垂らす紐なり

一〇　日蔭糸　萠黃　一具　東京市伯爵柳原義光氏出品

大嘗會新嘗會に冠に心葉を立つる時に用ゐし裝飾の具にして青色は廿歳頃までの色目なり

一一　挿頭華　櫻、藤　二本　東京市伯爵柳原義光氏出品

大嘗會悠紀主基の節會の時に賜ひしものなり

三七八　梅花釵子幷簪　三枚　宮内省下賜　本館藏

大嘗祭　新嘗祭の神饌行立の陪膳後取の采女の髮上の具なり、心葉を立てたる平額丼に釵子なれども近代はかく稱したり

九　挿頭華　梅花　二本　東京市伯爵柳原義光氏出品

八　梅花心葉　花瓣貝製　一枚　東京府伯爵柳原義光氏出品

豐明節會の時に冠の巾子の前面に立つるものなり

三七〇　大嘗會悠紀方御屛風　一雙　宮内省下賜　本館藏

三七一　大嘗會主基方御屛風　一雙　同　本館藏

明和元年の御料

三七二　大嘗會悠紀、主基方御屛風　二雙　同　本館藏

天明元年の料

大嘗會節會の時紫宸殿に立てたるものにて東方に悠紀方の御屏風を西方に主基方の御屏風を立てられしなり

一九八	大嘗宮模型	五十分の一	一組	宮内省下賜	本館藏

大正天皇大正四年十一月に大嘗祭を行はせられし時の大嘗宮一構の模型なり

二〇〇	束帶	皇族御用	一具	帝室博物館引繼	本館藏

(二〇〇以下二四〇號に至る)四十一點は大正天皇が大正四年十一月即位禮并に大嘗祭を行はせられし時皇族以下典儀に列せし人々の着用せしものなり

二〇一	衣冠單	皇族御用	一組	同	本館藏
二〇二	唐衣、裳	皇族御用	一組	同	本館藏
二〇三	小袿	皇族御用	一組	同	本館藏
二〇四	袿袴	皇族御用	一組	同	本館藏
二〇五	束帶	勅任官用	一組	同	本館藏
二〇六	衣冠單	勅任官用	一組	同	本館藏

二〇七	束帶	奏任官用	一組	同	本館藏
二〇八	衣冠單	奏任官用	一組	同	本館藏
二〇九	束帶	判任官用	一組	同	本館藏
二一〇	衣冠單	判任官用	一組	同	本館藏
二一一	布衣		一組	同	本館藏
二一二	唐衣、裳	勅任女官用	一組	同	本館藏
二一四	袿袴	勅任女官用	一組	同	本館藏
二一三	唐衣、裳	奏任女官用	二組	同	本館藏
二一五	袿袴	奏任女官用	一組	同	本館藏
二一六	唐衣、裳	陪膳女官用	一組	同	本館藏
二一七	釆女裝束		一組	同	本館藏
二一八	袿袴	內掌典用(高等官の分)	一組	同	本館藏
二三五	袿袴	內掌典用(判任官用)	一組	同	本館藏

二一九　束帶　衛門奉仕者用　一組　同本館藏

二二〇　束帶　威儀物捧持奉仕者用　一組　同本館藏

二二一　司鉦司鼓束帶　判任官用　一組　同本館藏

二二二　束帶　威儀奉仕者前列用　一組　同本館藏

二二三　束帶　威儀奉仕者後列用　一組　同本館藏

二二四　布衫　火炬手用　一組　同本館藏

二二五　布衫　駕輿丁用　一組　同本館藏

二二六　布衫　口付役用　一組　同本館藏

二二七　白張　雜色用　一組　同本館藏

二二八　風俗舞裝束　二組　同本館藏

二二九　着桐油　一枚　同本館藏

二三〇　白單衣　一領　同本館藏

二三一　小倉袴　一腰　同本館藏

二三二　金元結　四筋　同本館藏

女官髮上の具なり

二三三　繪元結　一筋　同本館藏

二三四　袿袴　一組　同本館藏

二三六　狩衣　一組　同本館藏

二三七　廳淨衣　一組　同本館藏

二三八　裲襠　黃布　二領　同本館藏

二三九　石帶　三條　同本館藏

二四〇　烏帽子　平禮　一頭　同本館藏

一六七　鉦鼓　兵庫寮用　二面　京都市浦上吳郎　大阪市足利陸郎　兩氏出品

近代は即位式にのみ用ゐしものなり

一六八　楯鉾　兵庫寮用　二面　京都市浦上吳郎　大阪市足利陸郎　兩氏出品

同前

○儀式用品

四〇一　鳥口文杖　一柄　宮内省下賜　本館藏

平素殿上間に備へ置き職事奏聞することある時に文書を挿むに用ゐし具なり

三六六　胡床　一脚　同　本館藏

紫宸殿出御の際に近衛次將南階の下左右に陣を引く時に腰を掛けしものなり

四二一　油皿　四枚　同　本館藏

紫宸殿の燈檠の附屬物なり

四二二　油差鍋　一箇　同　本館藏

紫宸殿の燈檠に注す油入なり

四二三　燈心押　一箇　同　本館藏

紫宸殿の燈檠の附屬物なり

四二四　燈檠　二十五箇　同　本館藏

紫宸殿の御柱に掛け油皿を載するものなり

四〇七　燈檠　十五箇　同　本館藏

同上

四〇八　御燈臺　七基　同　本館藏

牛糞形と稱す臺座の形より命じたるにて節會の時などに紫宸殿清涼殿に立てしものなり

四二〇　菊盆　一箇　同　本館藏

菊燈臺の下に油單の代として敷く所の盆なり

四〇三　鉾　二本　同　本館藏

紫宸殿出御の時に階下に陣する近衛次將の執りし儀仗の鉾にて比禮の紫地なるは中將の料赤地なるは少將の料なり

四〇四　鉾比禮　赤地　二枚　同　本館藏

近衛少將の執りし鉾に附くるものなり

三八八　韡　韡氈赤地錦　一足　同　本館藏

殿上人以上の官人束帶の時に穿きしものなり

二一三　賢聖屏風　六曲一雙　高松市　佐々木新造氏出品

三六五　御　莚　道　十枚　同　本　館　藏

畵　傳狩野安信筆　書　傳道晃法親王筆

內裡南殿の賢聖の障子は寬平四年始めて巨勢金岡に命じて描かしめられしも數度の變遷あり此圖は德川初期に描かれしものに係り撤下の後其の一部を屛風に改造せしものなり道晃法親王は　後陽成天皇の皇子にて吉宮と稱す聖護院に入り道勝法親王に從ひ法を受く寬永三年親王宣下延寶七年六月薨す安信は孝信の三男貞信の養子となり右京と稱し永眞と號す別に牧心齋靜閑子等號あり畵法を兄探幽に學び德川秀忠に仕へ治部卿法眼に叙す寬文三年紫宸殿賢聖障子を描き又江戶城の屛障をも描けり貞享二年九月歿す(卽ちこの圖を云ふか)

四〇二　長　鎭　子　九枚　同　本　館　藏

朝儀出御の時に通御の御道筋に敷きしものなり(兩面錦を用ゐるを兩面御莚道と云ふ)

四一七　角　鎭　子　三枚　同　本　館　藏

御莚道の兩端を押ふるに用ゐしものなり

三八五　菅　御　圓　座　一枚　同　本　館　藏

御座の御椅子の下に敷く毯代の押に置きしものなり

三八六　繭　圓　座　一枚　同　本　館　藏

大床子御褥氈の上に敷きし御圓座なり

九輪にて御料なるべけれど御用の御場所詳ならず

○

三七三　廂　几　帳　夏の料　二條　同　本　館　藏

夏の几帳にて帷に鶴と葦とを胡粉にて畵きたり淸涼殿庇の間の御料なるべし

三五七　大床子高麗御褥氈　一枚　同　本　館　藏

淸涼殿の大床子の上に敷くものなり

一四　御　茵　三帖　京都府寄附　本　館　藏

淸涼殿御料なり

四四〇　御　茵　十五帖　宮內省下賜　本　館　藏

淸涼殿晝御座、御學問所、常御殿、御三間、御黑戶等の御料幷に新朔平門院、英照皇太后の御料親王御板輿の御料等なり

三八四　殿上硯箱　一合　同　本　館　藏

淸涼殿の殿上間に置きし硯筥の模造なり

四一四　大宋御屛風　淸涼殿御用　一雙　同　本　館　藏

打球の圖にて騎馬するとせざるとの二樣あり夜御殿にも四方拜の御時淸涼殿の東庭にもこれを立てしなり

四三八 日給簡 五枚 同本館藏

清涼殿の殿上間の北壁に立てかけ置きて殿上人の上日を記入する簡なり

四二五 御燈籠 二個 同本館藏

清涼殿の夜御殿並に孫庇と飛香舍とに釣り掛けし鐵燈籠なり

四三九 御燈籠釣手 一本 同本館藏

清涼殿、飛香舍等の御燈籠の綱を掛くるものなり

○

三五二 御泔坏幷臺 一具 同本館藏

東宮御元服の御料にて紫宸殿なる御冠儀の御座の左方なる置物御机の上に置き御髪を梳り奉るに用ゐる御鬢水を盛りし器なり臺の海浦蒔繪は東宮御調度具の御模樣なり

三五三 打亂筥幷櫛手巾 一合 同本館藏

東宮の御料にて昭陽舍代(小御所)朝餉間御二階棚に載せ置き理髪の御具などを載せし器なり櫛手巾は櫛箆及手穢などを拭ふに用ゐし巾なり蒔繪の海浦は東宮御調度具の御模樣なり

三五四 御唐匣幷臺 一合 同本館藏

東宮御元服の御料にて紫宸殿なる御冠儀の御座の右方なる置物御机の上に置き理髪の御具を納れし筥なり蒔繪の海浦は東宮御調度具の御模樣なり

三五六 大床子 一脚 同本館藏

東宮御手水の時に着御の御料にて昭陽舍代御手水間に居ゑ置きしものなり

三五七 高麗御褥氈 一枚 同本館藏

東宮の御元服などの儀式の時に昭陽舍代御手水間に居へ置く大床子の上に敷くものなり

三五一 御胡床 一脚 同本館藏

東宮御元服の時昭陽舍代より紫宸殿に出御の御道筋なる十八間廊下の假階下御の際掲幔の間の御料なり

三六七 角盥、楾 各一口 同本館藏

手水を使ふに用ゐる具にて、御元服の時には加冠理髪の料、大嘗會の時には上卿以下神座供進せし人の料なり

三六八 唾壺 一口 同本館藏

打亂筥に載せ二階棚に置く實用よりも裝飾として用ゐたり

四一二 椅子 一脚 同本館藏

黑漆の椅子は紫宸殿にて東宮御元服の時の加冠理髪の人の料なり

四二九　御膳棚　一具　同　本館藏

東宮御元服の時に昭陽舍代の朝餉間に居ゑて御膳具を載せ置きし棚なり

四三〇　新年御膳具　一具　同　本館藏

立坊、御元服の時に昭陽舍代にて用ゐし東宮の晴御膳の具なるべし

四三一　新年御膳具　一具　同　本館藏

同上

三五八　臺盤　朱塗　一脚　同　本館藏

立坊御元服の時に昭陽舍代にて東宮晴御膳を載するものにてこの臺盤は足を用ゐず

○

四二八　龍鬚土敷、紫毯代　各二帖　同　本館藏

本來は龍鬚草にて編みたる筵なりしかど後には彩席を代用したりこれも彩席にて平敷の御座の時に御厚疊の上に敷きたり

これは立后節會の時に小安殿代の南庇に居ゐられたる大床子の御疊の上に敷きしものならむか

又紫毯代は御座の御椅子の下に敷く毯代なり

一七　魚帶　鍍金　一箇　東京市伯爵柳原義光氏出品

節會などの儀式に束帶せし時石帶に着けて佩しものなり金魚帶、銀魚帶の二種あるがこれは金魚帶、

にて公卿の料なり

三七五　御燈籠　一箇　宮内省下賜　本館藏

入內　立后節會等の時に飛香舍に釣りて點火せしものなり

三七四　御燈臺、油皿　飛香舍御用　七箇　同　本館藏

四一五　錢形御屏風　一隻　同　本館藏

此の式の屏風を俗に錢形と稱す普通の屏風と異なる點は蝶番の所に革を用ゐたると襲木の表裏兩面の上中下の三ケ所に小圓形の革を鋲にて打たるとなり

番を革にて張りたれば一方には折らるれど折返す事はせられず圓形の革は古代の屏風は二枚の左右の襲木に穴を開け革緒を通して結び合せたりし時圓形の木等を打ちし名殘にてこの革の形錢に似たれば錢形と云ふなりこれは入內、立后準后宣下などの時に飛香舍御帳の後側に立てられしものなるべし

四〇六　臺盤　七脚　同　本館藏

節會賜饌の時に饌具を居らる臺なりこれに切臺盤、長臺盤あり

四三六　草墪　一箇　同　本館藏

四三七　草墪　一箇　同　本館藏

節會などの公事に釆女闈司などの女官の腰を掛くるに用ゐしものなり

四三四　御火爐　一箇　同本館藏

節會の時に紫宸殿南庇に置きて御酒を暖むる銚子を掛くるに用ゐしものなり

四三五　御火爐　一箇　同本館藏

節會の時軒廊に置きて臣下に賜ふ酒を暖むる銚子を掛くるに用ゐしものなり

四三二　火鉢　一箇　同本館藏

四三三　炭取　一箇　同本館藏

節會の時に紫宸殿南廂にて用ゐる御火爐の炭を納れしものなり

四一八　銚子　三箇　同本館藏

節會の時に火爐に掛けて酒を暖むるに用ゐしものなり

四一九　鍋　一個　同本館藏

眞鍮製にて手の附きたるものなり用方詳ならず造酒司の辨備所にて用ゐし品ならんか

四一三　通障子　一基　同本館藏

節會などの儀式に紫宸殿御帳の西北隅に東西行に立てられて女官の座を隔てし障子なり

○

四〇九　移鞍　二具　同本館藏

近代は賀茂兩社八幡北野祇園春日等諸社の臨時祭に舞人の乘用せし馬具なり新內裏遷幸の時には御綱少將の乘用せし例あり

九五　勸盃胡瓶　一口　京都市島田貞彥氏出品

臨時祭男山祭賀茂祭立后節會並に御讓位節會の勸盃に用ゐしものなりこの器は明和七年十二月院廳官島田氏より調進せしものにて明和八年正月廿五日仙洞に御移徙し給ひし時の料なり

東京市横井時冬氏寄附

七三　玉箒及臺　一具　本館藏

正倉院御物模造にして原品は天平年間子の日の式に用ゐしものなり

四〇五　黑塗八足案　一脚　同本館藏

南北臨時祭御禊の時に御幣物を置きし案なり

三八七　御幣案　一脚　同本館藏

白木八足にて例幣發遣の時に神祇官代にて物を載せし案なり

四一六　四季御屛風　一雙　同本館藏

四二六　屛風挾　一箇　同本館藏

三六九　黃木綿裂　五枚　同本館藏

四二七　覆　一枚　同　本館藏

白菱綾にて裏は白平絹なり

二六六　賀茂別雷神社神殿鋪設圖　一巻　京都市高橋吾一寄附　本館藏

奥書に曰く

干時安永三丙午年三月十一日奈良社祝從四位上賀茂縣主季太

一六〇　立太子の儀調度圖　絹本着色　筆者未詳　三巻　京都府寄附　本館藏

一六一　車圖　紙本着色　二巻　同　本館藏

一、西園寺の分の奥書に曰く

西園寺家車圖畵以畵工寫之此實兄前西相通躬卿本也件本注記實系曾孫後十輪院蓮府御筆也　寶永六年三月二十日於燈下書之參議藤原花押（野宮中納言定基）四十一歳　右以野宮相公羽林定俊朝臣本命畵師狩野家令寫之予注記騰寫畢旹元文三年四月六日權大納言源（花押）

二、九條家の分の奥書に曰く

右九條家車圖以慈兄前西相君通の卿御本命畵師寫之御本注記曾祖後十輪院蓮府御筆也仍不顧禿筆毫臨寫畢　寶永六年三月廿一日參知政事殿副部點檢藤原花押（野宮定基）四十一歳　右以相公中將（野宮）定俊朝臣本命畵工狩野流寫之予注記彼本故前龍作定基卿筆也　干時元文三年五月十五日從二位行權大納言源花押

○大喪儀御用品

三二一　葱華輦　一基　宮內省下賜　本館藏

三二二　鉦　一對　同　本館藏

三二三　皷　一對　同　本館藏

三二四　旛　四旒　同　本館藏

三二五　胡籙　二組　同　本館藏

三二六　弓　二張　同　本館藏

三二七　楯　一對　同　本館藏

三二八　桙　一對　同　本館藏

三二九　纛旛　日像月像　二旒　同　本館藏

以上（三二一號以下三二九號に至る）九點は明治天皇大喪儀の際山城伏見桃山停車場より山陵に至る御鹵簿に用ゐさせられし威儀の具なり

三三〇　御輴車　一輛　同　本館藏

三三一　御輀車覆　一枚　同本館藏

三三二　御輀車輓具　一組　同本館藏

三三三　輓牛飾具　一揃　同本館藏

三三四　御幣櫃　一合　同本館藏

以上（三三〇號以下三三四號に至る）五點は照憲皇太后大喪儀の際東京に於て用ゐさせられし御料の具なり

三三五　黃錦旛　一旒　同本館藏

三三六　白錦旛　一旒　同本館藏

三三七　黃旛　二旒　同本館藏

三三八　白旛　二旒　同本館藏

三三九　胡籙　一對　同本館藏

三四〇　弓　一對　同本館藏

三四一　楯　一對　同本館藏

三四二　桙　一對　同本館藏

三四三　皷　一對　同本館藏

三四四　鉦　一對　同本館藏

三四五　鹵簿具建　一對　同本館藏

三四六　御饌櫃　一合　同本館藏

以上（三三五號以下三四六號に至る）十二點は照憲皇太后大喪儀の際山城伏見桃山停車場より山陵に至る御鹵簿に用ゐさせられし威儀の具なり

三四七　御簾　一枚　同本館藏

三四八　御幌　一條　同本館藏

三四九　御壁代　一組　同本館藏

以上（三四七以下三四九號に至る）三點は照憲皇太后大喪儀の際山城伏見桃山東陵齋場殿に用ゐさせられし御料の具なり

三五〇　御燈籠　一對　同太館藏

照憲皇太后大喪儀の際宮中權殿に用ゐさせられし御料なり

○服飾

二一九　夏冬御引直衣　二領　京都府愛宕郡　圓通寺寄託

傳後水尾天皇御料

天皇着御の御直衣なり普通の直衣よりは丈長し中古には臣下も着用せし例あれど近代は其例なし

冬御料は表白小葵綾裏縹平絹

夏御料は二藍三重襷顯文紗なり

二六九　御法衣　一具　京都市子爵梅溪通虎氏出品

後水尾法皇御料

二七〇　御狩衣　一領　京都市子爵梅溪通虎氏出品

後水尾天皇御讓位後の御料

一八七　御齊服　一領　京都市近藤直方氏出品

明治天皇御料

一八八　夏御下襲　一領　京都市近藤直方氏出品

明治天皇御料

一八九　御袍　一襲　京都市近藤直方氏出品

大正天皇御料

二〇七　細長　紅梅　一領　京都市大聖寺寄託

中御門天皇皇女勝明樂院宮着用

倫宮と稱し享保十八年六月大聖寺附となる天明元年十月二品に叙せられ文化五年七月准三后となり同月四日薨去

二〇八　細長　萠黄　一領　京都市大聖寺寄託

光格天皇皇女普明淨院宮着用

文政三年十二月大聖寺を相續同十三年五月廿八日薨去御年十一歳

二七八　御服　六領　京都市靈鑑寺寄託

如意法院宮御服

おちたきつ御ふく、住吉御ふく、御衣、半肌、生衣二

三七六　采女裝束　唐衣、繪衣貳、緋袴參　同　本館藏

闈司裝束　唐衣、繪衣貳、緋袴參

（采女）は節會の時に御膳供進を奉仕せし采女の服なり

（闈司）は節會の時に承明門に侍する闈司の着せし服なり

三八三　褶袴　二腰　同　本館藏

合袴とも云ふ南北臨時祭に舞人の穿きしものなり

二四五　緋長袴　一腰　京都府子爵豐岡圭資氏寄附　本館藏

二一七　御冠　一頭　京都府愛宕郡　圓通寺寄託

傳後光明天皇御料

三一八　御冠　一頭　京都府愛宕郡　圓通寺寄託

傳靈元天皇御料

御冠の御纓を巾子の上に折り曲け金の巾子紙を以て挿み押へたるなりこれを御金巾子冠と云ふ此の御冠は御直衣下の時の御料なり

五二〇
六二二　冠纓　二頭　東京市伯爵柳原義光氏出品

一二　緌　一條　東京市伯爵柳原義光氏出品

巻纓冠、細纓冠に掛けて兩耳の前邊に着くるものなり巻纓冠には緌を着けぬ時もあれど細纓冠には必すこれを着くるなり

三八〇　平額　六枚　宮内省下賜　本館藏

女子の唐衣、裳を着用する時の髮上の具なり

三七九　釵子幷簪　十二枚　同　本館藏

女子の唐衣、裳を着用する時の髮上の具なり

七　烏帽子　一頭　東京市伯爵柳原義光氏出品

立烏帽子にして堂上家の被りしものなり

八　烏帽子雛形　五十四種　京都府寄附　本館藏

諸家の烏帽子の折樣の雛形なり

一六　石帶　七條　東京市伯爵柳原義光氏出品

束帶の時に袍の上より腰を締むる具なり石に玉、瑪瑙石、犀角等ありて玉に有文無文の別あり形に巡方丸鞆の二種あり「古くは此石を銙と稱す」

三〇　石帶用石　一條　京都市吹田長治郎氏寄附　本館藏

白瑪瑙製有文

三一　石帶用石　一條　京都市吹田長治郎氏寄附　本館藏

大理石製有文

一五　平緒　二條　東京市伯爵柳原義光氏出品

紺地唐組

束帶の時に飾太刀、細太刀等を佩くに用ゐる緒にして續平緒は本にて切平緒は略なり近代は紺地紫

緌を主として用ゐたり
この紺地の平緒は丸紋なれば五位以上の檢非違使の料なり

一三　笏　九枚　東京市伯爵柳原義光氏出品

束帶の時は必ずこれを携へ衣冠、直衣、狩衣、淨衣などの服裝にても神拜の時に手に取りて儀容を整ふる具なり
笏に紙を貼附したるは備忘の爲に儀式の次第を記したる紙を押すこれを笏紙を押すと云ふ

九　笏　紙製模型　二十一種　京都府寄附　本館藏

光孝天皇御笏　御堂關白笏
熊野神寶笏　陽明家慶賀笏　猪熊關白家實公
牙笏　法隆寺所傳　眞楯公笏
菅廟御笏　卜部家日野家傳來　花山院家所傳笏
菅家牙笏　河内國道明寺所藏　閑院公季公笏
菅家牙笏　大塚所傳　貞信公笏
牙　笏　同　上　藤原眞楯公笏　一條殿御家
法性寺殿忠通公笏　光笏　勸修寺家
一條兼良公笏　一條家御所藏　新鞢韈笏
後德大寺左大臣　實定公材櫟　笏　筥　蓋
朝野羣載裝束進退笏

三八一　檜　扇　二枚　宮内省下賜　本　館　藏

横目扇とも云ふ女藏人以上の婦人幷に舞姫などの禮裝の時に翳しゝ扇なり

一四　檜　扇　七枚　東京市伯爵柳原義光氏出品

男子の束帶、衣冠、直衣等の時に用ゐし扇なり枚數には公卿、殿上人の別あり

一八　帖　紙　九枚　東京市伯爵柳原義光氏出品

束帶、衣冠、直衣等の時の懷中紙なり

三九六　弓　梨子地蒔繪　一張　宮内省下賜　本　館　藏

武官の公卿の執りしものなり

二一　弓　沃懸地　一張　東京市伯爵柳原義光氏出品

三九九　弓　沃懸地　一張　宮内省下賜　本　館　藏

儀仗の弓なり、これは沃懸地なれば五位以上の檢非違使の料なり

四〇〇　弓　黑漆蒔繪　一張　同　本　館　藏

武官の殿上人の執りしものなり

三九七　弓　黑　漆　一張　同　本　館　藏

六位の武官の執りしものなり

三九〇　平胡籙　梨子地蒔繪　一具　同　本館藏

武官の殿上人の負ひしものなり

一九　平胡籙　沃懸地　一具　東京市伯爵柳原義光氏出品

檢非違使の負ひしものなり

三九二　平胡籙　木地螺鈿　二具　宮内省下賜　本館藏

武官の殿上人の負ひしものなり

三九四　壺胡籙　梨子地蒔繪　一具　同　本館藏

武官兼任の公卿井殿上人の負ひしものなり

三九五　壺胡籙　黒漆　一具　同　本館藏

六位以下の武官の負ひしものなり

三九三　丸緒　紫淡　一條　同　本館藏

平胡籙に附くる緒なり色目に蘇芳淡、楝淡、紫淡、紺淡、啄木等あり

三九一　丸緒　蘇芳淡　一條　同　本館藏

梨子地蒔繪螺鈿平胡籙に附くる緒なり

三九八　丸緒　啄木　一條　同　本館藏

木地螺鈿平胡籙に附くる緒なり

二五　箭　十本　東京市伯爵柳原義光氏出品

儀仗の箭にて胡籙に挿して負ふなり

二三　鞭　一柄　東京市伯爵柳原義光氏出品

黒漆蒔繪にて殿上人の料なり

四一一　御椅子　一脚　宮内省下賜　本館藏

仙洞廣御所に居へ置かれたりしものにてこれは後櫻町天皇後院にての御料なりしなるべし

一九九　扇子　朝鮮製　一握　京都市男爵水谷川忠麿氏出品

傳後水尾院御料

二九四　御緒太　一雙　京都府南大路謙一氏寄附　本館藏

明治天皇御料

三七七　丸髷　五流　宮内省下賜　本館藏

通俗に（かぶ）と稱す女子髮上の時に叙子を挿入するものなり

三八二　細長及筥案　一具　同　本館藏

童男の儀式の時に着用せし服なり、これは幕府の嫡子出生の時に、朝廷より産衣として賜ひたりしものなり

一九〇　官女木偶幷几帳雛形　一個　京都市清水勝藏氏寄附　本館藏

三九　童裝束雛形　四點　京都市三上復一氏寄附　本館藏

直衣、單、奴袴、檜扇、衣桁及臺添ふ

七九　上表函　一箇　東京市横井時冬氏寄附　本館藏

賀表を納れて奉りし筥の概略の模造なり

二五三　葱華輦　一基　東京帝室博物館出品

近代は新嘗祭神嘉殿行幸雨儀の時に乘御維新後は御親征行幸賀茂兩社行幸太政官行幸などの時に乘御あらせられし御輿なり

七二　板輿　所傳法親王所用のもの　一基　京都市市原平兵衛氏寄附　本館藏

一　被衣　一領　京都市冷泉恭子氏出品

婦人の外出する時に頭より被りしものにてこれは堂上家婦人の着用せしものなり

四一　被衣用櫛　一箇　京都市大澤保三郎氏出品

被衣を被る時の具なり

三一一　古代女沓　一足　京都府寄附　本館藏

正倉院御物模造

三二五　花岳妙雪信女像　木彫彩色　一軀　京都市檀王法林寺寄託

背に　寛永九年十二月十日　花岳妙雪信女　施主泰安久甫　日牌司堂銀百廿目　永代不可有廢怠者也　法林寺第四世歴央花押の刻銘あり

三二六　艶觀智芳清信女像　木彫彩色　一軀　京都市檀王法林寺寄託

背に　寛永二十一年三月二十一日　艶觀智芳清信女　施主泰安久甫　日司堂銀百二十目　永代不可有廢怠者也　法林寺第四世歴央花押の刻銘あり

この像は花岳、艶觀兩信女の沒後泰安久甫がその追善の爲めに作り、法林寺へ寄進せしものにて、風上から見て用ひてゐる、衣服の樣式及紋樣等に、徳川初期の特色頗る多分に表はしたれば、その當時の風俗研究上の好資料なり

○家什及雜具

三二七　日月御鏡　二面　京都府日向神社寄託

社傳に光格天皇卽位式の御料と云ふ（御撫物の鏡なるべし）

二九九　道服　傳豐臣秀吉所用　一領　京都市豐國神社寄託

二七四　男子人形　朝鮮風俗等身大　一軀　京都市渡邊榮次郎氏寄附　本館藏

二七五　女子人形　朝鮮風俗等身大　一軀　同　本館藏

二七六　男子服裝　朝鮮通常用　拾種　一具　同　本館藏

二七七　女子服裝　同上　八種　一具　同　本館藏

六八　鏡　婚禮調度之內　鏡奩添　一面　大阪府　太田善左衛門氏出品

六九　鏡臺　同上　一基　大阪府　太田善左衛門氏出品

七〇　手匣　同上　一箇　大阪府　太田善左衛門氏出品

七一　手匣　同上　一箇　大阪府　太田善左衛門氏出品

七二　香匣　同上　一箇　大阪府　太田善左衛門氏出品

二八九　手匣　蓬萊山蒔繪　一箇　伏見市　石井隆之助氏出品

三一　五倍子粉匣　黑塗金蒔繪　一箇　東京市　九鬼周造氏出品

三二四　團扇　竹製網代組　一握　京都市　檀王法林寺寄託
黑漆塗三ッ葵牡丹唐草金蒔繪

二八二　講習堂額　彫刻　一面　本館藏
京都市松永誠四郎氏寄附

後水尾天皇宸翰

松永昌三に賜ふ所のもの

名は昌三字は遐年尺五及講習堂の號あり京都の人、貞德の男夙に學を好み藤原惺窩に師事して程朱の學を奉ず。博覧强記年十八歲にして豐臣秀賴に見えて書經を講ず又加賀侯に遊事し晩年京師に還り春秋館を築き授敎す後所司代板倉重宗宅地を二條城東門外堀川に與へ名つけて講習堂と云ふ明曆三年六月二日歿す門下に木下順庵宇都宮遯菴の俊才あり

五一 脇息 寺傳僧明惠遺物 一基 京都府葛野郡 高山寺寄託

九六 唐櫃 木製赤漆塗 一合 京都市 教王護國寺寄託

寺傳延喜の唐櫃と云ふ、周圍に弄毬人物の密陀畫あり蓋欲く

三一二 鼠燈檠 一基 宮內省下賜 本館藏

今より凡二百年前の點燈の具にして鼠の胴中に油を貯へ置き皿の油減する時には空氣作用にて胴中の油は鼠の口より滴下して皿に入り油が滿つるときは滴下は止む斯くして絕えず油の調節を計る巧妙なる作品なり

二七八 農具 十七點 京都市渡邊榮次郎氏寄附 本館藏

二七九 養蠶具 四點 同 本館藏

二八 臺灣人男女塑像 二軀 臺灣鮫島盛氏寄附 本館藏

二四 大甲蓆雛形 一枚 三重縣椽村鑛太郎氏寄附 本館藏

原料チヤウ草二筋 モダマ二箇

二四一 錀 傳朝鮮鏡城南門所用 一組 朝鮮稻垣多四郎氏寄附 本館藏

一七五 皷 南洋ニユーギニアパフア人所用 一箇 京都市 山本善之助氏出品

一七六 弓 南洋ニユーギニアパフア人所用 一箇 京都市 山本善之助氏出品

一七七 箭 南洋ニユーギニアパフア人所用 十六本 京都市 山本善之助氏出品

○樂器

三二 太平樂裝束 一揃 京都市 八坂神社寄託

左方の舞にして武舞なり服具は本來は武昌樂の服具を用ゐたれども後には秦王破陣樂のを用ゐて甲冑を着け胡籙を負ひ魚袋を懸け鉾を執りて舞ふ四人舞なり文武天皇大寶二年正月御宴の時にこの曲名初めて見えたり

三三 陵王樂裝束 一揃 京都市 八坂神社寄託

蘭陵王とも羅陵王とも云ふ略して陵王と云へり左方の樂卽唐樂なり此の曲は北齊の蘭陵王長恭勇武なれども容貌秀美なりければ常に假面を着けて軍に臨む向ふ所敵なく嘗て周の師を金墉城下に擊ち勇三軍に冠たりきされば齊人これを壯なりとし此の舞曲を作る故に蘭陵王入陣曲と云ふされど一說にはこの樂は聖武天皇天平八年に南天竺林邑國の僧佛哲の傳へし舞曲なりとも云へり此の說によれば唐樂にあらずして林邑樂なり

三六 倍臚裝束 一揃 京都市 八坂神社寄託

帝圖

倍臚破陣樂と云ふ林邑八樂の一にして常に倍臚とのみ稱す舞者十二人を古式とす中世は八人となり近世は四人となり太平樂の答舞とす舞人まづ鉾と楯とを執り林邑亂聲にて一周す是をワクと云ふ四隅に跪き鉾を下に置き劍を拔き復一周す而して本曲の奏樂となり左右互に楯を向ひ合せて舞ふ其舞終るや亂聲となり敵陣を破る姿勢をなして走り入る
此曲は古來軍中にて奏するを例とす爾來凱旋を賀する舞曲となりたり

三四　納曾利裝束　一揃　京都市　八坂神社寄託

右方の樂にして高麗樂なり雙龍交遊の狀に倣ひて作せしなりと云ふ二人舞なり一人にて舞ふ時には落蹲と云ふ

三五　崑崙八仙裝束　一揃　京都市　八坂神社寄託

單に八仙ともいひ又鶴舞とも云ふ高麗壹越調の曲にて破急あり四人舞なり

三七　蠻繪袍　二具　京都市　八坂神社寄託

蠻繪裝束は衞府の制服なり
蠻繪は盤繪の音訛なり盤又幡の通字なり或は云ふ繪模樣が西域の繪模樣なるにより蠻繪と稱するならんと
この袍を着たる隨身を蠻繪の隨身と呼べり又この模樣ある袍を單に蠻繪と略稱す

三八　舞樂用兜　七箇　京都市　八坂神社寄託

地久樂　輪臺　林歌　貴德　散手　鳥兜二

三九　舞樂用面　十一箇 [illegible]　京都市　八坂神社寄託

安摩　裏に明治十六年三月日太秦宿稱廣名居士門人遠上白燕製之と墨書す

安摩二ノ舞　二

裓頭　裏に拔頭假面者以攝州住吉之神寶摸作之正四位下行出羽守太秦俊壽花押于時嘉永三庚戌年仲夏日行年六十六歳と朱漆にて書

還城樂　裏に還城樂假面者云々（以下拔頭面の文と同じ）朱漆にて書す

散手　二　貴德　胡德樂　二

九七　舞樂用品　五點　京都市　敎王護國寺寄託

舞樂臺腰卷六枚　蠻繪袍二領　太鼓皮二枚　奚婁一箇　鞨鼓一箇
寺傳建武年中塔供養の時に用ひしものなりと云ふ

五六　唐冠　一箇　京都市西村半右衞門氏寄附　本館藏

文政年間能樂に用ひしものゝ摸造

八八　羯鼓　臺付　一箇　京都市　浄福寺寄託

足に浄福寺常什物摸服部修猷寄附文あり
胴に鳳凰散雲の沈金彫あり

八六　笙　一管　京都市　本能寺寄託

○○○年八月中旬之比造之　信貴山　延應元年の刻銘あり

54
4

八二 笙 銘 鶯丸 一管 京都市 眞正極樂寺寄託
正應二年巳丑八月七日於祇園中路御房作之畢僧重寛の刻銘あり

一〇六 笙 銘 胡蝶 一管 京都市 本圀寺寄託
嘉元元卯歳菩提山寺住僧盛尊作の刻銘あり

九〇 笙 一管 京都市 妙蓮寺寄託
嘉曆第三仲春上旬於尾州内海庄東三分一方治部卿覺仁作之と刻銘あり

四三 笙 銘 葵 一管 京都市 本圀寺寄託

一〇九 笙 銘 千鳥 一管 京都市 本圀寺寄託

七六 笙 一口 本館藏
京都市山田定兵衛氏寄附

八九 笙 一管 京都市 妙蓮寺寄託

一〇七 横笛 銘 鸎 一口 京都市 本圀寺寄託

四九 横笛 銘 大同丸 高麗笛 筒入 二口 京都市 岩田喜八氏出品

八七 篳篥 銘 鈴虫 一管 京都市 本能寺寄託

一〇八 篳篥 唐竹製 一口 京都市 本圀寺寄託

九四 三管 笙、銘鳳凰丸 篳篥、銘麟角 笛、銘騰龍 一組 京都市 本隆寺寄託
寺傳 文政七年光格上皇修學院御幸の日奏吹せし樂器にして御銘を賜ひしもの

一八九 太鼓 一面 本館藏
京都市高田新助氏寄附

一九九 締太鼓 一箇 本館藏
所傳手向山八幡宮所用 京都府池田忠四郎氏寄附

一八〇 小鼓 銘 鳴子 一箇 京都市 正傳永源院寄託
胴中に四所大明神 錢司庄〇典樂永享二二年壬子九月一日と墨書せり

二一九 鼓胴 銘 初音 一箇 滋賀縣 東豊一氏出品
胴黒塗櫻花鳴子金蒔繪、彌左衛門花押あり
寺傳 織田有樂所持

七八 琵琶 一面 京都府葛野郡 中川秀峯氏出品
箱書に曰く北面武士平佐長妻某平生琵琶を好み其歿後夢中告あり此器を作りて銘を明惠に請ふ明惠梵字を書して與ふ訓して(くれはとり)と云ふ

五一 律管 一箇 京都市 岩田喜八氏出品

管に藤元成摸安倍季尙之律と金粉文字あり

五〇 十二律鈴 一箇欠 十一箇 京都市 岩田喜八氏出品

九八 尺八 明暗寺舊藏 一管 京都市樋口孝道氏寄附 本館藏

二九 十四絃琴 明製 一張 京都市岩田喜八氏寄附 本館藏

八一 ブルター樂器 緬甸製 一箇 在緬甸國植村喜市氏寄附 本館藏

○遊戯具

一六三 夕顔臺子（及臺子） 光格天皇拜領 一組 京都市 寶鏡寺寄託

臺 風爐（香玉口） 釜（瓢形） 火箸 水指 建水 杓立 蓋置 棗（宗哲造の銘なり） 平棗（宗哲造の銘あり） 天目茶盌二（且入作） 天目臺（宗哲造の銘あり）

九三 茶盌 樂宗入作 一箇 京都市 山本規矩三氏出品

五代にして一入の弟子吉兵衛後吉左衛門と改む享保九年歿す

二九 茶杓 千宗旦作 添軸一幅 一箇 京都府宇治郡 毘沙門堂寄託

宗淳の男元伯又は元叔と號す今日菴咄齋と稱す初め紫野聚光院の喝食たり後家系を嗣く茶事を專らにし大に家聲を振ふ萬治元年十二月歿す

一一八 茶壺 通圓遺物 一箇 京都府愛宕郡 龍光院寄託

僧江月記文一幅添ふ

通圓は茶道を善くす大敏菴と號す山城宇治橋北岸に住み茶を賣るを業とす

江月名は宗玩大德寺五十六代なり和泉堺の人自ら欠伸子と號す春屋の法嗣たり寛永二十年十月一日寂す大梁興室禪師と諡す

三 茶壺 南陽郡記の印あり 一箇 京都府久世郡 上林春松氏出品

四 茶壺 一箇 京都府久世郡 中村藤吉氏出品

九二 茶壺 一箇 京都市 山本規矩三氏出品

二九 茶壺 一箇 京都市 中村彌一郎氏出品

二六三 大眞形釜 古蘆屋 一箇 京都市 大西清右衛門氏出品

所傳 加藤清正朝鮮より歸朝のとき船中飲用水を貯へしものにて其後宇治茶師上林に贈りしものと云ふ

54 4

549
41

三〇六 雲龍釜 傳與次郎作 一箇 京都市 寶鏡寺寄託

與次郎名は實久法名を一且と稱す桃山時代に於ける釜師として天下一の稱號を免されし名匠なり天正六年豐臣秀吉洛東に大佛殿を建立するに際し本尊を鑄造せしむ爰に於て與次郎の名聲益々高し

六九 立田大釜 作者不詳 一箇 京都府愛宕郡 芳春院寄託

六八 華表形大釜 作者不詳 一箇 京都府愛宕郡 芳春附寄託

九三 水指 菱形 初代清水六兵衞作 一箇 京都市 寶鏡寺寄託

初代六兵衞は攝津三島郡古藤六右衞門の男なり明和中京都五條に一窯を設けて專ら土燒の雅器を作る號して愚齋と云ふ寛政十一年歿す

一八一 爐緣 寺傳織田有樂所有 一箇 京都市 正傳永源院寄託

織田有樂は信長弟なり名は長益從四位下に叙し侍從に任す薙髮有樂齋如菴と號す茶事を專らにす元和七年十二月卒す

國寶 一九六 豐臣棄丸坐像 木造彩色 作者不詳 一軀 京都府葛野郡 隣華院寄託

國寶 一九二 小形武具 作者未詳 三種 京都府葛野郡 妙心寺寄託

寺傳豐臣棄丸所用

甲二 緋色々絲緘 一 冑一 鞍一

國寶 一九三 倶利迦羅龍守刀 銘 尙宗 一口 京都府葛野郡 妙心寺寄託

國寶 一九七 玩具船 木造彩色 作者不許 一隻 京都府葛野郡 玉鳳院寄託

寺傳豐臣棄丸所用

殿中傳育の具に用ひしものと云ふ

棄丸は豐臣秀吉の長子にして母は淺井長政の女(淀君)なり秀吉石河伊賀守を傅として愛育せしが僅に三歲にて天正十九年八月五日に死す法名を祥雲院殿玉巖麟公神童と云ふ

玆に載する棄君の木像及其遺品類は何れも山城葛野郡妙心寺及塔中各所に傳來するもの但短刀は棄君の出生を賀し蒲生氏鄉より献せしものと云ふ

二四六 棚物 紫檀製 一基 本館藏 京都府子爵豐岡圭資氏寄附

諫鼓雞、波上旭日、植木鉢靈芝、岩上鷹等を配列す

大樹殿より月次參上御がさり棚と云ふ

二四七 鑛金橘打枝 一枚 本館藏 京都府子爵豐岡圭資氏寄附

合せ香を入れて人に贈るもの具なり

一九 花器 白竹製 五箇 京都府寄附 本館藏

銘 深夜、萬代、狛鉾、岳陽樓、八重立峯

一七 香道具 一具 同 本館藏

吉野山蒔繪三種盤一　名所香櫻五　楓五　競馬香馬乘人形二　勝負木一　馬繫一　柱一　箭數香箭十箭臺二　銀麾十　金麾十　銀盤一　小札十二枚　入箱十　菊蒔繪亂箱一　銀葉十六　火取箸一香爐二　重香箱一　火道具七　火道具立一　火屋香爐一　志野折及記刺一　折居一　地敷紙一　源氏香圖本一

二〇　志野流香道歌仙會記錄　一册　同　本　館　藏

二一　志野流香道歌仙會香銘　一帖　同　本　館　藏

二〇六　雙　六　盤　一面　京都市　大　聖　寺　寄　託

石　象牙 十五　黑檀 十五　賽　二

二〇四　貝　覆　一對　京都市　大　聖　寺　寄　託

貝合（かひあはせ）とも云ふこの遊戲は源平時代より聞えたり三百六十の貝を地貝出貝（ちかひだしがひ）とに分ち地貝を座中に圓形に列べ置きて出貝を出だし其れに合せて地貝を取り數多く取りたるを勝にするなり

二〇五　花　合　一具　京都市　大　聖　寺　寄　託

四季造花山吹、躑躅　紅葉、水仙各十箇　勝負木十本　香道具筥一箇　小筥十八箇　小札十二枚入箱十

折据色紙十箇　臺一　白木小札(名記)各六十三枚十組

二七七　千　切　臺　一基　京都市　長谷川淸兵衞氏出品

二九二　雛　(町雛)　一對　京都市平本八重氏寄附　本　館　藏

二八〇　御繪道具及卦算並硯　一具　京都市　靈　鑑　寺　寄　託

星巖遺愛文房具　三點　京都市　宇田豐四郞氏出品

三四　琴　銘老龍　壹　張

三五　鐵如意　一　箇

三六　明星津石　一　箇

此三品に對し添卷　壹卷あり

題字三條實美　老龍琴歌　小野湖山

明星津石歌　谷鐵臣　鐵如意歌　江馬天江

記文　石津灌園

星巖名は孟緯字公圖天谷百峯老龍菴等の數號あり美濃の人東都に出て學を古賀精里山本北山等に受け後京師に住す勤王攘夷の論を稱し大に幕府の窺ふ所となる安政五年九月歿す、添卷歌に曰く鄉里星ケ岡より明星津石を得て星巖の號を呼び老龍琴を得て其菴號となせりと云ふ

六七　德川時代風俗人形　木造彩色　淸水隆慶作　百軀　一具　京都市　久保田庄左衞門氏出品

京都洛東建仁寺町松原に住す彫刻は巧なり享保頃の人

二七六　硯　キ　繪　眼鏡付　十五枚　京都市　鹽見淸右衞門氏出品

肉筆繪(傳圓山應擧と云ふ)　紙本着色　十枚

板繪色差し　五枚

549
41

549
41

一八七　盤　木製　一箇　大阪市池田重祐氏寄附　本館藏
明治廿三年帝國議會議院建築の材を以て作る由の記を裏面に刻す

○外邦ニ屬スル部

一五六　濃茶茶盌　井戸　銘　筒井筒　一箇　京都府宇治郡　毘沙門堂寄託
箱蓋裏書付云
豊臣秀吉北野大茶湯に用ひたりとその時誤て破損せしを補ふを以て後世筒井筒と號す云々細川三齋狂歌等の説あり　利休茶湯百會之記云此茶盌は彼豊太閤御秘藏の御茶盌を御近習何かしあやまりて取落し五つにかけるを細川幽齋翁御前に待りて　つゝ井筒いつつにかけし井戸茶盌とがをは我かおひにけらしなと讀たまひて御氣色直りしと

一八　茶盌　井戸　銘あかた　一箇　京都府寄附　本館藏

二〇〇　茶壺　蓮華王　一箇　京都市　大聖寺寄託
寺傳　靈元天皇より拜領

三〇二　雙陸子　象牙製　一箇　支那北京楊歡谷氏寄附　本館藏
周圍上部に唐草下部に山水圖の毛彫あり

○文房具

一六　古瓦硯　一箇　京都府寄附　本館藏
上部に本是宮王堂上物落寸玉成乙泓泉の十四字を刻す

一五　古瓦硯　銘鴻臚池　一箇　同　本館藏

二八三　硯　銘　松風　一面　京都市松永誠四郎氏寄附　本館藏
松永久秀遺物

一八八　硯　芙蓉峯　一面　大阪市池田重祐氏寄附　本館藏

二〇三　銅印　印文金剛杵　一顆　京都市　堀部功太郎氏出品

二八四　銅印　鷄頭鈕　三顆　京都市　沖野安次郎氏出品
印面(元)（財蜂私印）（品珍私印）

二八六　印各種　木、石、角材　三十二顆　京都市松永誠四郎氏寄附　本館藏
松永貞德、昌三、永三、淵齋、深志、澄齋、蘭芳等遺品なり

二八一　象牙印　印面(家齊)陽文　一箇　京都市岡本ツル氏寄附　本館藏

549
41

四〇 長嘯子遺愛文房具 二品 京都市 光雲寺寄託

警枕 助老 松永昌三記文一巻添ふ

木下勝俊は家定の長子長嘯子又は天哉翁と號す豊臣氏に仕へ左近衛權少將に任す豊臣氏亡びて後隱棲し和歌を樂む慶安二年六月卒す

一六六 古 墨 一丁 京都府 加藤省一氏出品

○外邦ニ屬スル部

七四 磚 硯 側面に大吉永佑子孫刻文あり 一箇 大阪府中河内郡 豊田吉次郎氏出品

一五 硯 銘松蔭 寺傳平重衡遺物 一面 京都市 知恩寺寄託

後奈良天皇女房文一巻 僧月舟松蔭硯記一巻添ふ

僧月舟名は壽桂別號を幻雲と云ふ近江の人なり京都建仁寺に住す天文二年十二月寂す

二一〇 澄泥鳳池硯 一面 京都府愛宕郡 神光院寄託

二四 硯 銘端紫 一箇 京都府宇治郡 松隱堂寄託

峨山道澄硯記一巻添ふ

一九四 歙州硯 寺傳僧慧玄所用 一箇 京都府葛野郡 妙心寺寄託

唐墨一添ふ

一四 硯屛 屛髹漆凸字形支那製 一箇 京都市 慈照院寄託

寺傳足利義政所持と云ふ

昭和五年九月二十日印刷
昭和五年九月二十日發行

定價金三十五錢

恩賜京都博物館發行

京都市柳馬場三條南
印刷人　福井松之助

京都市柳馬場三條南
印刷所　株式會社似玉堂

◎恩賜京都博物館陳列品目錄定價表（昭和五年三月末現在 既刊發賣中ノモノ）

一美術品目錄繪書之部　內容（口繪寫眞二枚　本邦繪畫、古代粉本類、支那繪畫）　一部金六十錢
一同　彫刻建築之部　內容（口繪寫眞二枚　佛像、樂面、能及狂言面、建築及同裝飾具、同雛形）　一部金三十錢
一同　書蹟之部　內容（口繪寫眞一枚　和漢書蹟法、帖類典籍）　一部金三十錢
一歷史品目錄圖書之部　內客（典籍、文書、圖書、金石文、古版類）　一部金六十錢
一同　古代遺品祭祀、宗教之部　內容（口繪寫眞四枚　古代所用品、古墳經塚其他發掘品、神像、神寶、祭器、宗教諸像、宗教具、教典類）　一部金四十錢
一同　禮式風俗之部　內容（口繪寫眞五枚　儀式用品、服飾、家什、雜具、大喪儀用品、樂器、遊戲具、文房具）　一部金卅五錢
一同　武器、貨幣、度量衡、印之部　內容（甲冑、刀劔、弓矢、銃砲、馬具其他　貨幣、度量衡、信印類）　一部金十五錢
一美術工藝品目錄　窯製品之部　內容（口繪寫眞三枚　陶磁硝子七寶琺瑯類）　一部金卅五錢

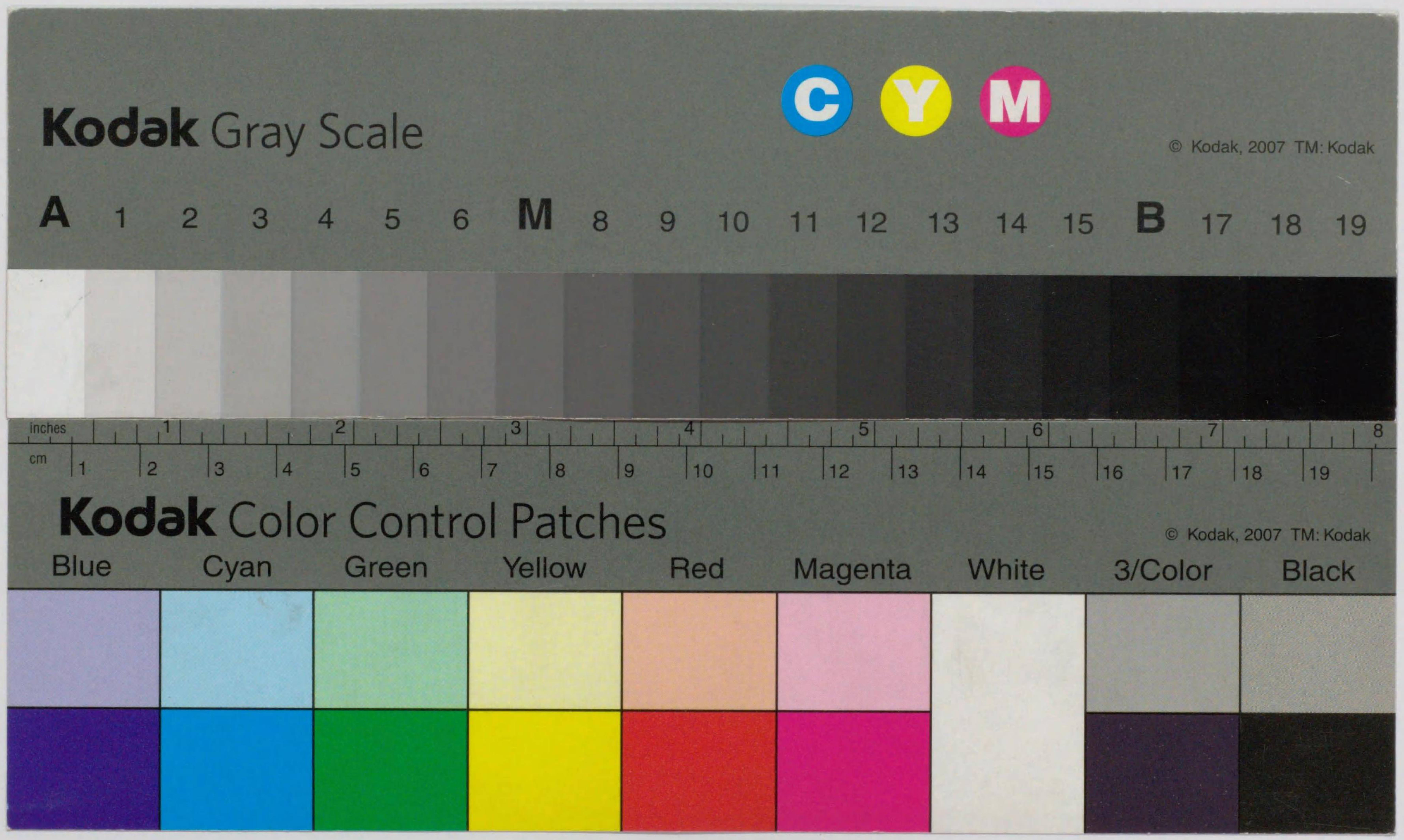
◎未刊ノ分

美術工藝品目錄中　金屬品、抹漆器、織繡品、玉石甲角竹木品、紙革品、寫眞、圖繪ノ部

以上

549
41

549
41


Kodak Gray Scale
C Y M
© Kodak, 2007 TM: Kodak
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
inches 1 2 3 4 5 6 7 8
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
Kodak Color Control Patches
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black